

研究部ニュース 2026年度第1号

2026年7月21日（火）

発行者：研究部

平素は本校の教育及び研究活動にご協力いただきありがとうございます。今回の研究部ニュースは、今年度の研究の取り組みや研修活動を紹介させていただきます。

本校研究主題（全校研究）

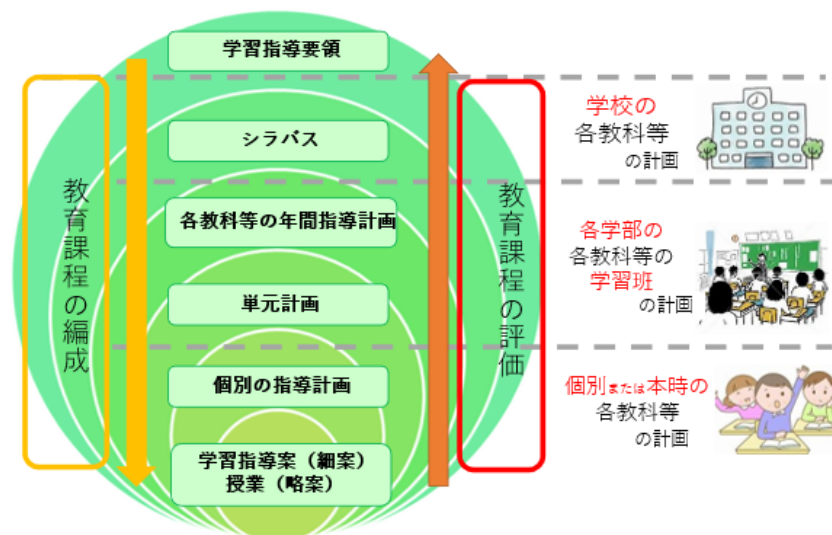
知的障害特別支援学校における教育課程の編成と評価の一体化

本校では、全校研究、ユニット研究、平野五校園共同研究の3つの柱で研究活動に取り組んでいます。全校研究では、令和4～6年度の3年計画で「知的障害特別支援学校における教育課程の編成と評価の一体化」についての研究に取り組んできました。本研究は、児童生徒一人ひとりに応じた指導や支援、授業ごとの目標や評価の適正化を通して、学習指導要領に則った個別最適な学びの実現につなげていくことをめざし、昨年度は、それらの運用と実践をしてきました。今年度はその定着をめざし、全校での授業研究体制を構築したいと考えています。それらの成果は、令和9年2月6日（土）の本校研究発表会で発表します。

また、本校では全校研究に加えて、特別支援教育の今日的課題に対応するためにユニット研究にも取り組んでいます。ユニット研究では、本学の先生や本校教職員が取り組みたい研究テーマについて、本学特別支援教育部門をはじめとする研究機関の先生方と共同研究として進めています。昨年度のユニット研究ポスターは本校玄関の掲示板に数枚ずつ掲示しています。是非、ご覧ください。

～本校全校研究について～

令和4年度から3年間、本校は研究主題を「知的障害特別支援学校における教育課程の編成と評価の一体化」と設定し、系統性のある個に応じた授業づくりを実現するための指標として、シラバス、各教科等の年間指導計画、学習指導案などの編成と評価の観点について検討を進めてきました。これらの編成と評価を一体化することで、すべての児童生徒に対して、系統性を踏まえた個に応じた授業づくりの検討が可能となり、一人ひとりの可能性を最大限に引き出す授業の実現につながることを成果としてまとめ、本校の実践へと結びつけてきました。その成果を踏まえ、本校では各授業のシラバスや教育課程の見直しの観点表を作成し、単元計画や学習指導案の様式を整理しました。今年度は、これらの研究成果を本校で「運用・実践・定着」させる段階と位置づけています。運用の過程で明らかになる課題を整理し、改善を図りながら、よりよい教育活動へと発展させていきます。



平野五校園共同研究の研究主題

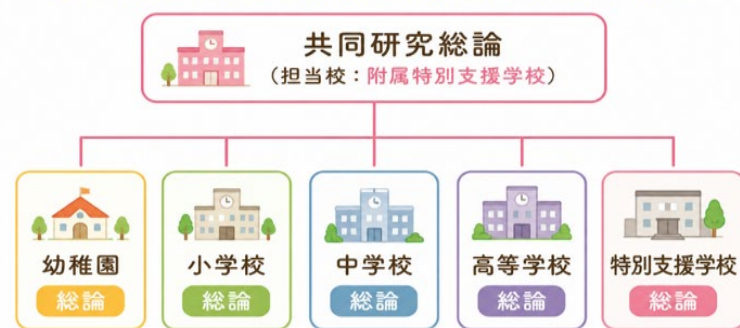
新しい社会を創造する子ども一人ひとりの育成を目指した教育課程の実施と教育評価

—主体性を育む自己選択・自己決定に向けた学びを通して—

本校は大阪教育大学附属学校園の1校であり、平野地区に所属しています。平野地区には、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校があります。この五校園で共同研究に取り組んでおり、これを「平野五校園共同研究」と呼んでいます。

令和8年度は、研究主題を「新しい社会を創造する子ども一人ひとりの育成を目指した教育課程の実施と教育評価 —主体性を育む自己選択・自己決定に向けた学びを通して—」と設定し、今年度が3年計画の3年次となっています。本校では、今年度作成した特別支援学校研究総論を基に、①主体性コモンルーブリックの本校におけるローカライズ化の実践 ②キャリア・プランニング能力を育成するための支援・指導モデルの作成に取り組めます。五校園共同研究発表会は10月31日(土)に行います。

平野五校園共同研究の推進体制 (令和8年度)



五校園は共同研究総論を基盤とし、それぞれの校種・発達段階に応じた実践研究を進めています。

令和8年度本校ユニット研究テーマ	共同研究者	教職員
専門職(教員)における攻撃性ユニット	西山 健 先生	大河、小川
発達支持的生徒指導ユニット	水野 治久 先生	河村
教師の専門性の形成過程ユニット	吉田 茂孝 先生	木田
学校安全ユニット	岩崎 弘 先生 丹沢 正太 先生	金、鹿田
協調運動ユニット	大内田 裕 先生	金、大塚
フィールドワークユニット	湯浅 哲也 先生	小森
語彙獲得ユニット	湯浅 哲也 先生	土口、飯島
就労に必要な力ユニット	家近 早苗 先生 餅木 哲郎 先生	松本
学び合いユニット	家近 早苗 先生 餅木 哲郎 先生	松本
就労先連携ユニット	影山 摩子弥先生	松本
ブロック玩具実践ユニット	西山 健 先生	的場
行動支援ユニット	四辻 伸吾 先生 梅川 康治 先生	山本、岩崎